

(様式1)

令和5年度 自己評価表 (最終)

愛媛県立新居浜工業高等学校

学校番号 (7)

教育方針	教育基本法及び学校教育法にのっとり、我が国の未来を切り拓く、豊かな人間性と創造性を身に付けた実践的技術者として、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献し得る人物を育成する。	重点目標	自ら学び、自ら鍛え、たくましく生きる生徒の育成 —ものづくりを通じた人づくり、夢づくり、 そして、魅力ある学校づくり— ○ 人としての在り方生き方を身に付けた心豊かな生徒の育成 ○ 確かな学力の定着と実践的キャリア教育の推進による進路の実現 ○ 自己有用感を高め、充実感や達成感を味わえる活動の推進 ○ 地域を愛する優しい心と貢献する意欲を持った人材の育成
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	基礎学力の向上	継続的に授業改善に取り組み、基礎・基本の定着を重視した分かる授業実践を推進することで、学習活動の充実を図る。 家庭学習時間を確保するための適切な課題を設定することで、学習習慣を確立させる。 技能審査の成果の単位認定を促進することで、主体的な学習をさせる。	B	授業評価アンケート「授業は分かりやすく、質問には丁寧にこたえてくれますか」に対し、1学期 96.9%の生徒が「はい」と回答しており、高評価を受けている。(本年度2学期はデータ未集計のため比較できない。) 考査期間中の学習時間は目標の2時間を約30分下回っており、十分とは言えない。授業内容の定着のためには、家庭での学習習慣が必要不可欠であり、家庭学習時間の増加は継続的課題である。	分かる授業の実践はこれまでと同様に継続して進められているものの、新居浜工業高校の教員としては100%を目指すべきである。次年度も2回の授業評価アンケートを実施し、目標の達成状況を確認する。また、基礎学力を向上させるためには家庭での学習習慣の定着が重要であるため、引き続き適切な課題の設定を呼び掛ける。
	教科指導の充実	アクティブラーニングの在り方、ICT機器の積極的な活用について研究を深め、その実践方法を探究する。 観点別学習の評価方法について研究・改善し、生徒の学習指導に活用できる評価方法を考察する。 研究授業や年間2回の相互授業参観週間時の積極的な参観を呼び掛け、他の教員の授業を参観することで指導方法の改善に努める。 総合教育センター研修や学校訪問研修等の積極的な参加により、教科指導力の向上を図る。	B	授業評価アンケートの「先生は……視聴覚機器を活用するなどの工夫をしていますか。」に対し、1学期 96.6%の生徒が「はい」と回答している。(本年度2学期はデータ未集計のため比較できない。) 電子黒板の活用が定着してきた。観点別評価については、指導と評価の一体化の実現のため、「C」がついた生徒を教科担当・担任で支援できる体制づくりを進めることができた。 学校訪問研修や相互参観授業、公開授業の機会を用い、各教員が互いに刺激し合い、教科指導力の向上に努めた。	各教員の授業力向上のため、各種研修や相互授業参観、公開授業については継続的に実施する予定である。特に、生徒の個人端末の活用方法については、他校の実践事例を参考に検討したい。 他校の学校訪問研修などの研修へは、自己研鑽はもちろん、ICT機器を用いた授業展開の情報収集にも資するため、多くの教員が積極的に参加できるように呼び掛ける。

学校経営	開かれた学校づくりのための学校公開と情報発信	<p>P T A活動や学校行事への参加者の増大を図るとともに、保護者や地域住民からの提言を参考に改善に努める。</p>	A	<p>多くの学校行事の再開に伴い、P T A活動が以前のように熱心に行われた。保護者の方の提言を参考に、レクバレーや企業見学、運動会や文化祭バザーを工夫し、充実した活動を実施することができた。</p>	<p>S N Sを活用したP T A連絡網の開設で連絡がスムーズになり、更に効果的な利用方法を工夫して、コロナ禍以後の活動の在り方を検討していく。</p>
		<p>学校行事や部活動、各学科の授業の様子などを、学校ホームページや「新居浜工業高校公式チャンネル」などを活用して配信し、保護者や地域へ向けて、学校の魅力をアピールしていく。</p> <p>保護者向けの連絡等が携帯メール等を利用して確実に伝わるように努め、学校と家庭との連携がより強くなるように努める。</p>	A	<p>学校ホームページでは、記事が随時更新されており、学校行事を中心に、生徒や学校の様子を伝える努力がなされている。「新居浜工業高校公式チャンネル」、「公式ツイッター」にて、学校での活動が伝えられており、多くのアクセスがあった。さらに、メール配信を活用した保護者への文書の配付案内は好評であり、登録率も97%を超えている。</p>	<p>ホームページや公式 YouTube チャンネル等で、生徒の様々な活動の様子を見ていただき、本校の魅力をより知っていただくように努める。</p> <p>メールの効果的な活用により、P T A便りをはじめ多くの連絡事項・学校情報を適切に発信し、メール登録率100%を目指す。</p>
工業教育	実践的技術者としての知識・技術の充実	<p>ジュニアマイスターの取得対象者数をゴールド5人以上シルバー15人以上にし、卒業時の資格・検定取得数を1人当たり平均5個以上にする。</p> <p>ゴールド (A: 5人以上、B: 4人以上、C: 3人以上、D: 2人以上、E: 2人未満) シルバー (A: 15人以上、B: 12人以上、C: 9人以上、D: 6人以上、E: 6人未満) 卒業時 (A: 5個以上、B: 4個以上、C: 3個以上、D: 2個以上、E: 2個未満)</p>	C	<p>ジュニアマイスターの取得対象者数は、ゴールド3人(評価C)、シルバー8人(評価D)となっている。卒業時の資格・検定取得数は、1人当たり4.4個(評価B)となった。ジュニアマイスター顕彰ゴールド3名のうち2名はジュニアマイスター顕彰制度特別表彰に該当し、本校では過去10年になく特筆できる成果である。</p> <p>資格・検定取得数を評価すると、質は大きく改善されたものの、量は振るわなかったと言える。</p>	<p>昨年度の反省を生かし、難易度の高い資格検定に勇気を持ってチャレンジした成果として、ジュニアマイスター顕彰制度特別表彰に該当する者を2名輩出した。一方で1人当たりの資格・検定取得数は、4.4個と昨年度の4.6個を下回った。</p> <p>各学科よっても1人当たりの資格・検定取得数にばらつき(6.8~2.5個)があり、各科で見直しをお願いしたい。</p>
	ものづくり教育の推進	<p>ものづくりコンテスト等各種競技大会で、全国大会出場3部門以上を目指す。</p> <p>取組内容の紹介・発表会等を積極的に開催するなど、その成果を校外に広く知らしめる啓発活動を行う。</p>	A	<p>ものづくりコンテストでは旋盤部門で全国大会出場、化学分析部門で四国大会奨励賞受賞、溶接競技で全国大会第4位に当たる産報出版賞受賞、NIT プロダクトデザインコンテスト3Dモデリング部門では2年連続優秀賞受賞、全国ユース環境活動発表大会四国地方大会では優秀賞、マイコンカーラリーでは四国大会団体優勝、特にAdvanced Class では1~4位を独占する活躍であった</p> <p>第33回全国産業教育フェア福井大会に生徒作品を出品し、愛媛県の工業高校の技術力の一端を発信した。</p>	<p>来年度も生徒が輝きを持って活躍できる各種競技会やコンテストの紹介・参加に向けた啓発を行うとともに、ものづくり人材の素地となる生徒の技術・技能の向上に努め、ものづくりに興味・関心が持てるよう努めたい。</p>
	地域貢献を目指して	<p>一日体験入学、ものづくり教室、出前授業、製作物寄贈・メンテナンス等の活動など、校外において地域と連携した有意義な取組を行う。</p>	A	<p>VYS部は、ウクライナに車いす20台を贈った。ものづくり教室では例年の2倍以上の申込みがあり、急遽2回目を開催し地元中学生の希望に応えた。「東予ものづくり祭」をはじめ、登り道商店街の活性化を目的とした「小学生ものづくり体験教室」や今年度は新たに3世代交流イベントである「Sweet Town~愛顔の咲く街へ~クリスマスマルシェ2023」にも協力し、生徒が持つ技術力を活かした地域貢献に努めた。</p>	<p>来年度も地域産業・地域資源に着目し、生徒の工業力を生かした地域に密着・連携・協働した取組を通して、地域に愛される工業高校として地域貢献・発展に寄与できる持続可能なものづくり活動を実践し、生徒の自己有用感と肯定感、そして心豊かな人間性を育み、地域産業を支えるものづくり人材の育成に努めたい。</p>

ICT環境	ICT教育推進	「1人1台端末」を使った学習(課題配付・回収等)を、すべての教科において、月4回以上実施する。	A	13教科中7教科で目標を達成できている。全体での平均は5回で、使用回数も徐々にではあるが向上した。	目標回数を達成できていない教員が半数近くおり、学習活動で効果的に使用する場面を作る研究をお願いしたい。
	SNS情報発信	YouTubeおよびSNSの合計再生回数月平均 500回、動画アップロード数年間 40 動画を目指す。 再生回数 (A:500回以上、B:400回以上、C:300回以上、D:200回以上、E:200回未満) 動画制作 (A:40以上、B:30以上、C:20以上、D:10以上、E:10未満)	B	YouTube 動画再生月平均は 2,183 回。動画アップロード数は 12。	動画コンテンツの制作をしている生徒に負担がかかっている、完成に時間がかかっている。1分程度のショート動画の方が若者受けしやすいので、これらも検討して、短時間で制作できるようにしていく。
	校務分掌のデジタル化	生徒や保護者に対するアンケート調査など、配付物のデジタル化に努める。生徒用端末または保護者からの回答を直接担当者が回収でき、同時に集計や提出状況の把握が完了することで、業務の軽減を目指す。併せて押印の省略化を加速させる。	A	一部を除いたアンケート調査は、デジタル化に移行できており、集計業務の負担においてもかなり軽減できた。学校評価アンケートでは、2・3年生の9割以上がオンライン回答だったのに対し、1年生の3割強が紙媒体での回答だった。	調査期間に余裕を持たせるなどして、生徒のオンライン回答の割合を100%にしたい。
特別活動	充実感ある学校行事の推進	運動会、新工祭、グループマッチなどの学校行事に、生徒を積極的に参加させ、達成感を味わわせるとともに、生徒会役員の主体性を引き出しながら、生徒会活動の活性化を図る。	B	昨年度まで、新型コロナウイルス感染症の影響で制約があったが、今年度は通常通りの実施となり、運動会や新工祭など生徒を中心に意欲的・積極的に活動することができ、活気のある行事となった。生徒会役員も準備や運営に積極的に活動し、スムーズな運営に貢献した。	生徒会活動の活性化を図り、学校行事のスムーズな運営を促し、生徒に意欲的・積極的な活動をさせることによって、達成感・成就感を味わわせたい。
	地域共生プロジェクト	交流体験(ボランティア活動・保育・介護体験など)に積極的に参加させ、豊かな人間性を育む。	B	災害防止ボランティアの活動のみであったが、生徒は立川地区の清掃活動を地域の方々と共に一生懸命活動し、一緒に活動した地域の方々からも高評価をいただいた。	地域との連携を密にし、地域との連携を深め、地域に貢献する活動を自主的・意欲的に取り組ませていきたい。
	部活動の充実	各部とも目標を高く掲げ、その達成に向けて精神力・技術力の強化を図る。 3年間継続して活動できる体制を作って、部の活性化を図る。	B	活動の制約もなくなり、運動部・文化部共にしっかりと目標を掲げ、自主的・意欲的に活動した。その結果、運動部ではハンドボール部・ウエイトリフティング部・少林寺拳法、文化部では機械部・電子機械部が全国大会に出場するなど素晴らしい成果を上げることができた。	部活動加入率を向上させ、多くの生徒が3年間継続して活動できる体制を工夫し、しっかりした目標を掲げ、自主的・意欲的な活動を促し、更なるレベルアップを目指したい。

生徒指導	規範・防犯意識の育成	<p>社会のルールを守り、健全な生活の確立を図る。 自転車置き場の整理整頓及び自転車の施錠を徹底させ、防犯意識の定着を図る。 登校時の交通指導を行い、ルール遵守の意識を高める。</p>	C	<p>多くの生徒は、全体的には落ち着いた学校生活を送っていた。しかし、一部の生徒は社会や学校のルールに違反したり、健全な人間関係を構築できずにトラブルになったりした。 また、登下校の様子は以前に比べると落ち着いた雰囲気であり、交通事故の発件数も減少した。しかし、ヘルメット未着用や交通マナーに違反する者への苦情の電話も数件あった。</p>	<p>校内外における全体的な生徒の雰囲気は決して悪くはなく、引き続き指導を継続していきたい。しかし、義務教育期間中に様々な教育を受けてきているにも関わらず、あまりにも規範意識が低い一部の生徒に対し、全教職員が主体的に努力して学校生活の基礎から指導し、改善していかなければならない。</p>
	基本的習慣の確立	<p>身だしなみの重要性を認識させ、高校生らしい身だしなみをする習慣を定着させる。 保護者と双方向の関係を確立するとともに、生徒とのふれあいを深め、遅刻・早退・欠席の防止に努める。</p>	C	<p>身だしなみ指導の1次合格者の平均は66%であり、不合格者には服装規定に沿った指導を行っている。特定の生徒が毎回1次不合格者で指導を受けており、改善の傾向が見られるとは言えない。 保護者との関係は各先生方が適切に対応してくれているが、意見の相違があることもあった。遅刻を繰り返す生徒に対する指導については、手詰まり感が大きい。</p>	<p>基本的な生活習慣が身に付いていない生徒に対しては、保護者と連携して指導をする。すぐに効果が出るような指導方法は無いが、粘り強く、諦めずに取り組むしかない。</p>
教育相談	教育相談の充実	<p>生徒理解を深め、悩みや困り感を抱える生徒や、支援を必要とする生徒との相談活動を充実させる。</p>	C	<p>複雑な家庭環境に置かれた生徒も多い。特に1年生においては、進路変更による中途退学者や不登校傾向の生徒もいた。それらを含めて、学校生活への適応に困難さを感じる生徒の現状を把握し、校内関係者と連絡、対応協議をしてきて、当該生徒への対応はある程度できていると考える。しかしながら、特定の生徒に対してこちらから呼出しを行う相談活動に集中しており、自発的に来談する生徒が少ないのが現状である。</p>	<p>全校生徒に対する呼び掛けを行うとともに、生徒との信頼関係の構築に努め、気軽に相談しやすい環境づくりが大切であると思われる。また、次年度に向けて、学校生活全般に意欲を持たない生徒に対する相談活動を、広い視野を持って実行していく。</p>
	特別支援教育の充実	<p>支援を必要とする生徒やその保護者との対話を行うことで、日頃の状況や行動を的確に把握し、支援活動に生かす。 外部の専門員からの指導・助言を受け、校内体制を充実させる。また、研修の機会を生かし、特別支援教育への理解を深める。</p>	B	<p>新居浜市教育委員会発達支援課と連携しつつ、新入生に対する丁寧な引継ぎを行うことで、円滑な支援体制がスタートできるような体制が構築されている。 本年度の教職員研修は、外部講師を招くことができず、昨年同様映像による研修を行った。今年度は、東京学芸大学制作の動画を視聴した。</p>	<p>特別な支援が必要な生徒に対して、直接的な関わりを持つ指導者の現状や困り感を、アンケートを通して具体的に把握しつつ、より実効性のある指導体制を校内全体で構築していく。</p>

人権・同和教育	人権に配慮した個性の育成	日頃の生徒との関わりのなかで、生徒理解の観点に立ち、思いやりの心や自尊感情を育む。 すべての教育活動の中に同和教育の視点を位置づけ、日々の生活の中で様々な人権課題の解消に取り組むことのできる生徒を育てる。	B	本校生徒の日頃の生活態度から、自他を尊重する態度は育ちつつあると感じるが、まだ十分とは言えない。一方、人権委員をはじめとする生徒達が香川県での現地研修会や新居浜市人権フェスタ等に参加し、相手を思いやる心や人権を尊重する心を育てるための機会を持つことができた。	全ての教育活動の場面において、人権・同和教育の観点に立った指導が重要であると教師が自覚して実践することで生徒の模範となり、受容的な態度で生徒の思いに耳を傾け、小さな変化にも気づけるような声掛けを実践していく。
	いじめ、差別のないクラス	互いの人格を尊重する意識を醸成し、いじめの兆候を見逃さず、早期解決に努める。	C	いじめや差別のないクラスにするために、ホームルーム活動や講演会などを通して啓発に努めたが、いじめを許さない雰囲気づくりや行動に十分結びついていないのが現状である。	学校生活の全ての場面で、人権感覚を磨き、いじめや差別を許さない行動に結びつくように、更に啓発に努めていく。
進路指導	就職指導の充実	地域社会、保護者との緊密な連携を図り、生徒一人一人の適性に合った進路指導を推進し、自分自身が納得のいく進路実現に努めるとともに、就職内定率 100%を目指す。 (A:90%以上、B:80%以上、C:70%以上、D:60%以上、E:60%未満)	A	生徒たちが目指している進路実現に向けて、ホームルーム活動等を利用した企業研究や職場見学への参加、面接指導等に取り組んだ。生徒一人一人の能力や適性を十分把握し、それぞれの生徒に応じた進路指導を推進した。	生徒が望む企業とのマッチングのための企業情報の提供やアドバイス、また面接試験に必要な情報提供などを通して、個々の適性に応じた進路指導を家庭の協力を得ながら進めていく。
	進学指導の充実	進学補習や模擬試験等の実施及びオープンキャンパス、学校説明会への積極的な参加を促し、自分自身が納得のいく進路実現に努めるとともに、進学先決定 100%を目指す。 (A:90%以上、B:80%以上、C:70%以上、D:60%以上、E:60%未満)	A	進学補習を行い、基礎学力の向上に努めさせた。また、オープンキャンパスや学校説明会へ積極的に参加させた。今年度も進学補習や本人の努力により、愛媛大学工学部に合格することができた。	入学試験に必要な情報の提供や、個々の適性に応じた進学指導を学校と家庭を両輪として進めていく。
学校安全	学校安全の充実	定期的に施設設備における点検を行い、安全の確保と教育環境の向上・改善に努める。	A	1学期ごとの学校施設点検を教職員が行っており、修繕等が必要なところは予算状況に応じて早期に改善している。	生徒及び教職員の安全等を考慮し、必要などころから早期改善に努めたい。
		委員会活動を中心に、校内の美化向上に努める。	A	春・秋に前庭池の水を全て抜き、池清掃を行った。正面玄関の顔であるため美しく保てるよう継続して務めた。学校周辺の河川の清掃活動にも取り組めた。	校内外の美化活動や、防災に関する行事において、中心的役割を果たすような委員会活動をさせた。
		防災避難訓練や消火器等の使用訓練を通して、危機に対応できるスキルを身に付けさせる。	B	地震・火災に対応する避難訓練と、予告なしの訓練を通じて、昨年に続き防災意識高揚に取り組めた。生徒の災害に対する危機意識も変化してきている。	自分の住む地域の災害に意識をして目を向け、家庭での避難場所を確認し、防災に対する取組が地域全体に広がるようにさせる。

学校保健	学校保健の充実	健康診断の機会に、生徒に自らの健康について関心を持たせ、自己管理能力の育成を図る。	C	保健便りや掲示物などを通して、それぞれの検診の意味を伝えられるようにした。健康診断後は異常の有無に関わらず全員に結果を通知し、自らの健康状態に目を向けられるようにした。	もっと直接的なアプローチを行うことで、生徒が自らの健康に関心を持ち、健康を維持しようとする力をより高めることができると考える。
		委員会活動を中心に、校内の衛生環境の整備や健康意識の向上に努める。	C	保健委員会の活動の中で、環境衛生検査や手洗い設備の点検等を行い、校内の環境衛生について確認することができた。	生徒自らが健康のための環境づくりができるようにするために、保健委員会の活動内容や校内環境について積極的な情報発信が必要である。
学校行政事務	教育環境の整備	予算の適正な執行により施設・設備の整備充実を図り生徒の健康に配慮した教育環境作りに寄与する。	A	本格稼働は来年度からになるが、今年度は特別教室の空調整備を行っており、より良い教育環境づくりに取り組んでいる。	老朽化した施設及び備品設備について、予算状況に応じて早期に修繕及び更新したい。
	会計処理の適正な執行の推進	県費、私費会計の有効で効率的な計画を行い、適正な処理体制のもとに予算の執行を行う。	B	物価高騰に伴って、例年どおりの厳しい予算状況だが、教職員の消耗品の節約、節電等の協力により、限りある予算の中で適切に執行することができている。	来年度も厳しい予算状況が予想されることから、効率的な支出計画をして早期に適正な予算執行を行いたい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化や平準化を図り、時間の有効活用を図る。	C	教職員に対する連絡は校務支援システムや Teams、マチコミを利用し、連絡の簡素化での業務軽減を徹底した。また、各種会議の時間短縮を図り、統合・省略も行った。校務分掌等の業務の偏り改善を考慮した役割分担を行った。	引き続き校務分掌等の業務の偏りの改編等を行っていききたい。また、長期休業中等の教職員テレワーク制度の活用など、DX を図ることで業務の効率化を検討する。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	C	健康相談室だよりやメンタルヘルス関係・福利厚生情報を電子掲示板で発信した。また、希望者を対象に校医による健康相談を行った。	必要に応じて、「メンタルヘルス休日相談」「教職員心と体の健康相談」等の相談事業を紹介していききたい。

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。